

浜の活力再生広域プラン

1 広域水産業再生委員会

組織名	由比・大井川広域水産業再生委員会
代表者名	会長 宮原 淳一

広域委員会の 構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 由比地区地域水産業再生委員会（由比港漁業協同組合、静岡市） ・ 大井川地域水産業再生委員会（大井川港漁業協同組合、焼津市） ・ 静岡県漁業協同組合連合会 ・ 静岡県信用漁業協同組合連合会 ・ 静岡県（水産振興課、水産技術研究所）
オブザーバー	

※再生委員会の規約及び推進体制が分かる資料を添付すること。

対象となる地 域の範囲及び 漁業の種類	<p>静岡県静岡市（由比地区）、焼津市（大井川地区）</p> <p>さくらえび2そう船曳網漁業（由比地区 40 経営体） （大井川地区 18 経営体）</p> <p>しらす1そう船曳網漁業（由比地区 38 経営体）</p> <p>しらす2そう船曳網漁業（由比地区 6 経営体） （大井川地区 14 経営体）</p> <p>定置網漁業（由比地区 1 経営体）</p> <p>刺網漁業（由比地区 36 経営体） （大井川地区 10 経営体）</p> <p>さより2そう船曳漁業（由比地区 2 経営体） （大井川地区 4 経営体）</p> <p>いわし2そう船曳網漁業（大井川地区 4 経営体）</p> <p>しらうお1そう船曳網漁業（大井川地区 3 経営体）</p> <p>底立てはえ縄漁業（大井川地区 6 経営体）</p> <p>小型機船底びき網漁業（大井川地区 1 経営体）</p> <p>わかめ・こんぶ養殖漁業（由比地区 2 経営体） （大井川地区 1 経営体）</p> <p>かご漁業（由比地区 2 経営体）</p>
---------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

2 地域の現状

(1) 地域の水産業を取り巻く現状等

駿河湾は日本では最も水深のある湾であり、大井川・安倍川・富士川などからミネラルを豊富に含む河川水が流れ込み、魚のエサとなるプランクトンが豊富なことから恰好の漁場となっている。由比地区及び大井川地区では駿河湾を漁場とし、さくらえび2そう船曳網漁業のほか、由比地区では主にしらす1そう船曳網漁業と定置網漁業、大井川地区ではしらす2そう船曳網漁業を行っている。特にさくらえびは日本国内では駿河湾でのみ（由比港・大井川港）漁獲され、平成28年には漁獲量1,214トン、漁獲高33億円と両地区の主要漁業となっている。

さくらえび2そう船曳網漁業は昭和52年より由比地区（42ヶ統）・大井川地区（18統）が足並みを揃え、全船主・乗組員が均等の収入を得られる総プール制を導入し、全国でも先駆的なさくらえびの資源管理に取り組んでいる。漁期外（7月～11月）には静岡県水産技術研究所と県桜えび漁業組合が協力し、さくらえびの産卵調査を行い、資源量の把握・漁場管理・資源管理に努め、漁業所得安定を目指している。また、産官学で構成される静岡県ハダカイワシ利活用研究会・ハダカイワシ利用研究会を立ち上げ、静岡県水産技術研究所が申請した特別採捕許可に基づいて未利用魚であるハダカイワシ類センハダカの6次産業化も推進している。

さくらえびは、駿河湾西部（大井川沖）から駿河湾奥部（富士川沖）にかけての沿岸域に広範囲に分布しており、一般的に春漁では湾奥部に、秋漁では湾西部に漁場が形成されることが多いとされている。このため、春漁期中は湾奥部の漁場に近い由比港に、秋漁期中は湾西部の漁場に近いう大井川港に船を係留することにより、漁場までの移動距離を短縮し燃油使用量を削減するなど、効率的な操業に向けた体制を整えることが必要である。

また、現在は、基本的には所属する漁協の港に水揚げしているが、より単価の高い港に水揚げすることにより、漁家収入の増加につながると考えられる。例えば、由比地区に比べ比較的平坦な土地が広がる大井川地区は、さくらえびの主要加工品である素干し（天日干し）を作るのに適しており、主として素干し原料に仕向けられるため、雨天時など天日干しに向かない時には需要が少なく、大井川港漁協の単価は低くなりやすい。一方、由比港漁協では、素干しだけでなく、釜あげや生食用冷凍加工業者も多いため大井川港漁協より単価が高くなる傾向がある。

なお、主要漁業であるさくらえび2そう船曳網漁業では、数年間にわたる資源量の減少による漁獲量の減少に加え、漁網等の資材や漁船維持費の支出の増加により漁業利益が減少している。また、原油価格は為替や原油産出国等の国際情勢に大きく左右されるため、燃油代や漁網等の石油製品の価格も不安定な状況にあることから、生産性の向上、漁業コストの削減を図るため省エネ機器や高効率機器の導入により漁業収入の安定化に向けた取組が必要である。

また、近年9月～11月にかけて、クロマグロの混獲が散見される場所である。WCPFC（中西部太平洋マグロ委員会）で合意された保存管理措置に基づいて設定されている我が国のクロマグロ漁獲上限を遵守するためには、当該地域の定置網を休漁せざるを得ず、クロマグロの混獲回避が必要となっている。

さらに、国内全体として少子高齢化が進む中、若年層が現状の漁業に将来を見出すことができ

ず、漁業者の高齢化や後継者不足、ひいては漁業者数の減少という問題につながっているため、新規就業者の確保と中核的漁業者の育成が急務となっている。

(2) その他の関連する現状等

< さくらえびの知名度及び認知度 >

近年、主要漁業であるさくらえびの漁獲量の減少に加え、消費量自体も減少がみられ、魚価が低下するなど漁業経営は低迷している。

このような状況の中、地元においては定期的なイベントの開催や、県内外の小学生を対象とした漁業体験教室を行うほか、さくらえびを使った料理教室などを開催し、消費拡大に向けた取組を行っている。一方、由比港漁協では10年ほど前から富山県の白エビ祭りに参加し、さくらえびのPRを行っているほか、大井川港漁協では岐阜県土岐市（焼津市のスポーツ姉妹都市）においてさくらえびの販売・PRを行うなど、両漁協ともに自ら県外に出向いて知名度及び認知度向上のための取組を行っている。しかしながら特に関西圏では、さくらえびがアキアミなどの他のエビ類と誤認されている場合も多々見受けられるなどまだまだ知名度・認知度は低く、販売量も少ない状態である。

< 観光 >

由比地区では、清水区三保にある「三保の松原」の世界遺産登録を機に当地区への来客数が増加している。大井川地区では富士山静岡空港、東名高速道路の大井川焼津藤枝スマートインターチェンジ、国道150号線静岡バイパス～焼津バイパス、志太榛南バイパス及び志太榛南Ⅱバイパスの4車線化などの交通インフラが整備され、アクセスが格段に向上し観光客の増加が見込まれ、これまで以上に水産物を売り込むチャンスが到来している。しかし、これら観光客向けの販売施設としては、由比港漁協では直売所、直営食堂、加工場があるものの、それぞれが数百メートル離れた場所に位置しているうえに、直売所と直営食堂は非常に手狭な状態である。大井川港漁協では、直売所はあるものの常設の食堂はなく、来訪者の受け入れ体制としては不十分な状態である。このため、由比港漁協においては、直売・食堂・加工場機能を備えた新しい施設の整備が求められているほか、大井川港漁協では、常設食堂を含む水産物販売拠点の早急な整備が必要である。

一方、全国的にみると東日本大震災以降沿岸地域への訪問や滞在を避ける傾向がある。由比・大井川地区においても、アクセスは向上したものの地震や津波発生時の避難場所あるいは避難経路の確保が不十分であるとの理由により小学生を対象とした漁業体験教室の申込数は震災前の

半分以下になってしまっている。来訪者が安心して滞在できるような環境を目指し、津波防災・減災力の強化・津波避難場所の確保などの対策が急務となっている。併せて漁業に関しても、災害時の迅速な漁業復旧や燃料の安定供給が必要不可欠である。

また地域からの若年層の流出が目立ち、高齢化・過疎化が進行しており地域の産業にも影響を及ぼしている。

3 競争力強化の取組方針

(1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

<販売・流通力強化の取組み>

① 直販・食堂・加工場の整備

- ・ 由比港漁協においては、現在分散している直売所、食堂、加工場を集約した施設整備を5年後をめどに行うことによって、利用者の利便性の向上及び販売の効化を図り、販売力強化に繋げる。
- ・ 大井川港漁協では中京・関西圏からの観光客を視野に入れ、さくらえびをはじめとした水産物のPR及び販売促進を図るための水産物販売拠点として漁協直営食堂の新設を行う。大井川港漁協と由比港漁協の食堂で同じメニューを提供することにより、両漁協で共同してさくらえびのPR・販売促進に取り組む。
- ・ 「沖漬け」などのさくらえびを使った新たな商品開発に漁業者自らが取り組むことで商品のラインナップを充実させ、販売・流通力強化につなげる。

② 知名度・認知度の向上

- ・ 両地区の特産品であるさくらえびは、永年の普及活動によりようやく首都圏での知名度・認知度が高まり、由比港漁協の直営食堂には年間約8万人が訪れている。しかし、由比港漁協の直営食堂の来訪者はほとんど首都圏からの来訪者である。そのため、由比港漁協においては、県内の近隣地区で開催されるイベントに年3回程度参加するとともに、首都圏も含め県外で開催されるイベントに年2回程度参加する。大井川港漁協においては、まず中京・関西圏で開催される展示会などのイベント（名古屋フードビジネスショー、FABEX 関西、シーフードショー大阪など）へ年1回程度の継続的な参加を目指す。こうしたイベントへの参加機会を増やし、両漁協が共同してさくらえびの知名度・認知度向上のための取組を強化する。
- ・ 現在、静岡市ではふるさと納税の返礼品として由比港漁協のさくらえびが活用されているが、静岡市との連携をさらに強化し、より魅力ある返礼品となるよう商品の見直し・拡大を図る。大井川港漁協では新たに焼津市と連携しふるさと納税の魅力ある返礼品として、さくらえびなどの地域水産物の活用を推進することにより、知名度・認知度向上を図るとともに消費拡大に繋げる。

③ 未利用・低利用資源の活用

- ・ 由比港漁協ではさくらえびに混じって漁獲され、地域食材として食べられていたセンハダカをすり身に加工し、つみれ汁としてイベントで販売したり、学校給食用に提供したりしている。また、さくらえび加工業者が1尾ずつバラ凍結したセンハダカを業務用冷凍パックとし

て関東圏向けに販売を開始したほか、さくらえびとセンハダカのかき揚げや佃煮などが販売されている。大井川地区（焼津地区）では、センハダカを使用した練り製品（つみれ、さつま揚げなど）の新商品開発が進み、県内や首都圏のスーパーなどで販売を始めているほか、魚醤やスナック菓子など特色ある新商品開発も進んでいるが、現在センハダカを対象とする漁業はないため、将来的に新たな漁業として確立するため、センハダカの資源管理と商品開発や販売・流通力強化を並行して進める。

<漁場環境・資源管理の取組み>

① プール制の推進

- ・ さくらえびの資源量の減少により漁獲量が減少傾向にあり、漁場も春漁と秋漁で変わり、また日々変化することから、水産技術研究所の調査結果も踏まえてさくらえび漁業者自らが漁場管理を行い、また日々の適正漁獲目標を設定して資源管理に努める。
- ・ 出漁予定日には毎日、出漁の可否、当日出漁する隻数、当日目標とする水揚量、当日操業する漁場を協議することにより漁業管理を行い、また全船に水揚げ金額を平等に分配するプール制を行って漁業管理を安定的に継続することによりさくらえび資源を管理し、資源量の増加と魚価の安定化を図る。
- ・ 出漁の検討の際には静岡県水産技術研究所の資源研究と密なる連携を取り、サクラエビ資源の持続的な利用を図っていく。
- ・ 新たにしらす漁業についても、地区ごとに水揚状況と市場価格に応じて、水揚げ金額を均等に分配するプール制の導入について検討を行い、供給過多の場合は漁獲量を制限し、漁獲が少ない時には操業隻数を減らして、魚価の安定化とコスト削減を図る。

② 適正な漁獲量の把握

- ・ さくらえびの資源量の把握、水質調査や資源増殖などの検討を進め、研究者・有識者等による助言をもとに、適正な漁獲量を把握する。

③ さくらえびの産卵調査

- ・ 静岡県水産技術研究所と連携して漁期外（7月～11月）にさくらえびの産卵調査を行い産卵数・産卵場所等を把握することで、漁場を選定し資源の保護に努める。

④ 定置網漁業における資源管理

- ・ 由比地区で行われている定置網漁業の安定的な操業を実現するため、定置網においてクロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための取組を行うことにより、適切な資源管理を実施する。

<機能再編の取組み>

① 供給体制の確立

- ・ さくらえび2そう船曳網漁業において、各市場の市況情報など、翌日の各地の天候を両漁協で共有し、全船平等に水揚金が分配されるプール制を活用して、由比港・大井川港の両港のうち、より単価が高い港への水揚が可能な体制を確立することにより、さくらえびの価格の

向上、安定化を図り、水揚げ金額の向上につなげる。

② 漁港の共同利用

- ・ さくらえびは、駿河湾内の沿岸域に広範囲に分布しており、漁場が形成される場所は操業日によって異なるものの、一般的に春漁では湾奥部に、秋漁では湾西部に漁場が形成されることが多いとされている。このため、春漁では湾奥部に近い由比港に係留し、秋漁では湾西部に近い大井川港に係留するなど、漁場に近い港に船に係留することで、使用燃料の削減が可能となるだけでなく、操業時間の短縮など労働環境の改善も図られる。また操業に必要な氷、燃油については、現状では、所属する漁協の港で積み込みを行っているが、どちらの港でも供給できるような体制を整えることにより、漁業の効率化、漁業コストの削減を目指す。

上記の取組を両漁協で組織的に行うことで、競争力強化のための機能再編が可能となる。

<地域活性化の取組み>

① イベントの開催

- ・ 由比港漁協では年1回のさくらえび祭りとは年3回の浜の市を行うほか、大井川港漁協では港朝市など年2回イベントを行う。両漁協のイベントでは、さくらえび沖漬けなどの両漁協の加工品を連携して販売し、さくらえびの需要拡大、魚食普及を目指す。

② 漁業体験教室・料理教室

- ・ 漁業者が、一般・小学生等を対象とした漁業体験教室を実施することで、水産業に親しんでもらい、関心を高めることで、若年者層への魚食普及や漁業就業希望者の確保を目指す。
- ・ また、定期的に両地区で料理教室を開催し、年間を通じて魚食普及に努める。

③ 防災・減災力の強化

- ・ 地域住民と漁業者、さらには観光客の安心・安全を確保する為、両漁協は行政（静岡市・焼津市）と連携して津波防災・減災力の強化や津波避難場所を確保するとともに、迅速な災害復旧を目指し漁船への給油施設や上架施設整備等の強化を図る。

(2) 中核的担い手の育成に関する基本方針

・ 地域の漁業の安定的な継続を図っていくためには、地域漁業の中心となっていく意欲的な漁業者の育成を進めていく必要がある。そのためには、浜の担い手漁船リース緊急事業の活用により、意欲ある中核的漁業者の育成に努め漁業の継続を図るほか、若手漁業者、後継者を確保し地域漁業の強化に繋げる。

・ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業の活用や漁業経営セーフティネット構築事業の加入促進により、生産性を向上させるとともに漁業コストを削減し漁業経営の安定化を図り、若手漁業者や新規就業者の確保・育成を行う体制をつくる。

・ 中核的漁業者が若手漁業者・後継者・新規就業者に対し技術指導等を行い、就業しやすい環境づくりと中核的担い手の育成を図る。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

<p>① さくらえび 2 そう船曳網漁業における、由比・大井川地区での共同の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 静岡県漁業調整規則第 36 条により、さくらえび禁漁期間を設定し（毎年 6/11～9/30）さらに 12 月末～3 月中旬には自主的に禁漁期間を設定している。 ・ 県知事に対し、「静岡県駿河湾海域におけるさくらえび漁業の資源管理計画」を提出、管理体制整備と自主的管理措置を講じている。 ・ 自主的な取組として、共同操業と収入均等分配方式である「プール制」を実施、操業隻数・出漁日数・漁具漁法の制限を行い、経営の合理化と資源保護、衛生管理のための生産調整を図る。 ・ 「出漁対策委員会」を設置し、漁期中の出漁可否・出漁隻数・漁場を（操業場所）協議し、燃油使用量の削減を図り漁業経営のコスト削減を図る。 ・ 資源を保護するため、操業前に試験網を実施し、漁獲に適した大きさであるか確認してから操業することで資源保護を図る。 ・ 県桜えび漁業組合が中心となり、未利用魚のハダカイワシ類センハダカについてもハダカイワシ利活用研究会を設けて、さくらえびのプール制と同様の管理を行い、新たな漁業として確立していく。 <p>② しらす船曳網漁業における、由比・大井川地区での共同の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 由比地区では「1 そう船びき網漁業による静岡県海域におけるしらす資源管理計画」を作成し、大井川地区においても「静岡県海域における大井川港漁業協同組合のしらす資源管理計画」を実施することで、管理体制を整備するとともに自主的管理措置を講じている。 ・ また、新たにプール制の導入を試みることにより、不漁時の無駄な出漁を抑制し、燃油等のコスト削減に努める。

(4) 具体的な取組内容（年度ごとに数値目標とともに記載）

1 年目（平成 29 年度）

取組内容	<p><販売・流通力強化の取組み></p> <p>① 直販・食堂・加工場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特産品であるさくらえびの需要拡大、消費拡大を目指すため由比港漁協では現行施設の整備計画について関係機関と協議を行い、大井川港漁協では、新たに食堂施設の建設を行う。 ・ 食堂施設建設に伴い、各市場で水揚げされた水産物を直接仕入れする事で、買い支えによる魚価の安定と、消費者には安価な水産物の提供を可能にするため、買受人組合と両漁協で買参権を取得するための協議を行っていく。 <p>② 知名度・認知度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 由比港漁協においては、県内の近隣地区で開催されるイベントに年 3 回程度の参加、および県外で開催されるイベントに年 2 回程度の参加を目指す。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・由比港漁協ではふるさと納税を継続して活用し、年1回の商品の見直しを静岡市と連携して行い、魅力ある商品を提供することで認知度の向上と消費拡大を目指す。また大井川港漁協では現状は商品の提供を行っていないため、焼津市と連携しふるさと納税商品を提供できる体制づくりを検討する。 <p>③ 未利用・低利用資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手漁業者が研究開発した、新鮮なさくらえびを特製だれに漬け込んだ「桜えびの沖漬け」のほか、カマスやクログチなどの低利用・未利用魚をすり身にしてボイルしたものを真空パックした「漁師魂(りょうしだま)」を継続して製造・販売し、また新たな商品開発を行い雇用拡大と所得向上につなげる。 ・ハダカイワシ利用研究会において、未利用魚であるセンハダカの有効活用を進める。 <p><漁場環境・資源管理の取組み></p> <p>① プール制の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらえび漁出漁時に出漁対策委員会を開催し、出漁の可否、出漁隻数、目標水揚量、漁場を協議し、資源管理を行い資源量の回復を目指す。 ・両地区のしらす漁業についても水揚状況と市場価格に応じて、プール制を導入する検討を行なう。 <p>② 適正な漁獲量の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらえびを持続的な漁業にするため、漁場調査等を実施し、適正な漁獲量、漁獲可能な資源量を把握することができるように、有識者や研究者等と連携を図れる体制づくりを検討する。 <p>③ さくらえびの産卵調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年のさくらえびの主漁場、生息場所の変化に伴い、さくらえびの産卵調査場所の見直しや調査回数、調査範囲等を県桜えび漁業組合と水産技術研究所が連携して検討をおこない、漁期外(7月～11月)におけるさくらえびの産卵調査に取り組み、また漁期では漁場を選定し資源保護を行う。 <p><機能再編の取組み></p> <p>① 供給体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらえび2そう船曳網漁業において、各市場の市況情報などを両漁協で共有し、「出漁対策委員」が指揮を執り、より単価が高い港への水揚が可能な体制の確立を目指し、さくらえびの価格の向上、安定化を図る。また、両漁協での自営施設利用分については、安価の市場より仕入れることのできる体制づくりを検討し、消費者へ安定した価格で供給できるよう進める。 <p>② 漁港の共同利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらえび2そう船曳網漁業は漁期により漁場が変化するため、各漁期間中において漁場に近い方の港に船を係留し使用燃料を削減できるような環境整備
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>及び、漁業に必要な氷、燃油はどちらの港でも供給できるような体制づくりについて検討する。</p> <p>③ 防災・減災力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・由比地区では静岡市が「由比地区特定漁港漁場整備事業」に基づき平成 28 年度から引き続き平成 29 年度も由比漁港水揚げ岸壁改良工事を行うなど漁港整備を実施していく。 ・大井川地区では、焼津市の「大井川港内津波対策施設整備事業（案）」に基づき津波対策を行うなどの検討を図っていく。 <p><地域活性化の取組み></p> <p>① イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・由比港漁協での「由比桜えびまつり（毎年 5 月 3 日）」、「由比港浜の市（年 3 回）」と大井川港漁協での「大井川港朝市（毎年 4 月 29 日）」、「商工会祭り（毎年 11 月 3 日）」等で両漁協の新開発商品（桜えびの沖漬け・漁師魂等）の販売を行うなどお互いに連携して PR、運営のノウハウを共有し、更なるイベントの活性化、特産物の利用普及を図る。 <p>② 漁業体験教室・料理教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両地区において一般、小学生等を対象とした漁業体験教室や料理教室の参加人数を増加させる為、観光業・情報産業と連携を図る体制づくりを構築する為の検討を図る。 <p><中核的担い手の育成に関する取組></p> <p>① 漁業収入向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜の担い手漁船リース緊急事業の活用により、意欲ある中核的漁業者を核とした漁村の維持・発展を目指し、地域漁業の強化につなげる。 <p>② 省力化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業等の活用やセーフティーネット構築事業の全船加入を推進することで、生産性向上、漁業コストの削減および漁業収入の安定化を図り、中核的担い手や若手漁業者の確保・育成を目指す。
活用する支援措置等	[1] 漁業経営セーフティーネット構築事業、[2] 浜の活力再生交付金（水産業強化支援事業）、[3]水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業、[4] 競争力強化型機器等導入緊急対策事業、[5] 資源管理体制高度化推進事業、[6] 漁業収入安定対策事業

2年目（平成 30 年度）

取組内容	<p><販売・流通力強化の取組み></p> <p>① 直販・食堂・加工場の整備</p>
------	---------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品であるさくらえびの需要拡大と消費拡大を目指すため由比港漁協では現行施設を整備するため関係機関と基本計画の検討をおこない、大井川港漁協では食堂施設の運用を開始する。 ・食堂施設建設に伴い、各市場で水揚げされた水産物を直接仕入れすることで、買い支えによる魚価の安定と、消費者には安価な水産物の提供を可能にするため、買受人組合と両漁協で買参権を取得するための協議を行っていく。 <p>② 知名度・認知度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・由比港漁協においては、県内の近隣地区で開催されるイベントに年3回程度の参加、および県外で開催されるイベントに年2回程度の参加を目指す。 ・由比港漁協ではふるさと納税を継続して活用し、年1回の商品の見直しを静岡市と連携して行い、魅力ある商品を提供することで認知度の向上と消費拡大を目指す。また大井川港漁協では現状は商品の提供を行っていないため、焼津市と連携し、ふるさと納税商品を提供できる体制づくりを検討する。 <p>③ 未利用・低利用資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品であるさくらえびを使った商品「桜えびの沖漬け」のほか、低利用・未利用魚を使った商品「漁師魂（りょうしだま）」を継続して製造・販売し、また漁業者自らが新たな商品開発を行い雇用拡大と所得向上につなげる。 ・ハダカイワシ利用研究会において、未利用魚であるセンハダカの有効活用を進める。 <p><漁場環境・資源管理の取組み></p> <p>① プール制の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらえび漁出漁時に漁出対策委員会を開き、出漁の可否、出漁隻数、目標水揚量、漁場を協議し、資源管理を行い資源量の回復を目指す。 ・両地区のしらす漁業についても水揚げ状況と市場価格に応じて、プール制を導入する検討を行なう。 <p>② 適正な漁獲量の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらえびを持続的な漁業にするため、漁場調査等を実施し、適正な漁獲量、漁獲可能な資源量を把握することができるように、有識者や研究者等と連携を図れる体制づくりを検討する。 <p>③ さくらえびの産卵調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年のさくらえびの主漁場、生息場所の変化に伴い、さくらえびの産卵調査場所の見直しや調査回数、調査範囲等を県桜えび漁業組合と水産技術研究所が連携して検討を行い、漁期外（7月～11月）におけるさくらえびの産卵調査に取り組み、漁期での漁場を選定し資源保護を行う。 <p><機能再編の取組み></p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>① 供給体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さくらえび2そう船曳網漁業において、各市場の市況情報などを両漁協で共有し、「出漁対策委員」が指揮を執り、より単価が高い港への水揚が可能な体制の確立を目指し、さくらえびの価格の向上、安定化を図る。また、両漁協での自営施設利用分については、安価の市場より仕入れることのできる体制づくりを検討し、消費者へ安定した価格で供給できるよう進める。 <p>② 漁港の共同利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さくらえび2そう船曳網漁業は漁期により漁場が変化するため、各漁期間中において漁場に近い方の港に船を係留し使用燃料を削減できるような環境整備及び、漁業に必要な氷、燃油はどちらの港でも供給できるような環境体制について検討する。 <p>③ 防災・減災力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 由比地区では静岡市の「由比地区特定漁港漁場整備事業」に基づき漁港整備を図り、大井川地区では焼津市の「大井川港内津波対策施設整備事業（案）」に基づき津波対策を進めていく。 <p><地域活性化の取組み></p> <p>① イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 由比港漁協での「由比桜えびまつり（毎年5月3日）」、「由比港浜の市（年3回）」と大井川港漁協での「大井川港朝市（毎年4月29日）」、「商工会祭り（毎年11月3日）」等で両地区の新開発商品（桜えびの沖漬け・漁師魂等）の販売を行い、お互いに連携してPR、運営のノウハウの共有し、更なるイベントの活性化、特産物の利用普及を図る。 <p>② 漁業体験教室・料理教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両地区において一般、小学生等を対象とした漁業体験教室や料理教室の参加人数を増加させる為、観光業・情報産業と連携を図る体制づくりを行う。 <p><中核的担い手の育成に関する取組></p> <p>① 漁業収入向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浜の担い手漁船リース緊急事業の活用により、意欲ある中核的漁業者を核とした漁村の維持・発展を目指し、地域漁業の強化につなげる。 <p>② 省力化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業の活用やセーフティーネット構築事業の全船加入を推進することで、生産性向上、漁業コストの削減および漁業収入の安定化を図り、中核的担い手や若手漁業者の確保・育成を目指す。
活用する支援措置等	[1] 漁業経営セーフティーネット構築事業、[2] 浜の活力再生交付金（水産業強化支援事業）、[3]水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業、[4] 競争力強化型機

	器等導入緊急対策事業、[5] 資源管理体制高度化推進事業、[6] 漁業収入安定対策事業
--	---------------------------------------------

3年目（平成31年度）

取組内容	<p><販売・流通力強化の取組み></p> <p>① 直販・食堂・加工場の整備</p> <p>・特産品である、さくらえびの需要拡大と消費拡大を目指すため、由比港漁協では現行施設を整備するため関係機関と基本計画に着手し、大井川港漁協では引き続き食堂施設を運用していく。</p> <p>・食堂施設建設に伴い、各市場で水揚げされた水産物を直接仕入れすることで、買い支えによる魚価の安定と、消費者には安価な水産物の提供を可能にするため、買受人組合と両漁協で買参権を取得するための協議を行っていく。</p> <p>② 知名度・認知度の向上</p> <p>・由比港漁協においては、県内の近隣地区で開催されるイベントに年3回程度の参加、および県外で開催されるイベントに年2回程度の参加を目指す。</p> <p>・由比港漁協ではふるさと納税を継続して活用し、年1回の商品の見直しを静岡市と連携して行い、魅力ある商品を提供することで認知度の向上と消費拡大を目指す。また大井川港漁協では現状は商品の提供を行っていないため、焼津市と連携し、ふるさと納税商品を提供できる体制づくりを検討する。</p> <p>③ 未利用・低利用資源の活用</p> <p>・特産品であるさくらえびを使った商品「桜えびの沖漬け」のほか、低利用・未利用魚を使った商品「漁師魂（りょうしだま）」を継続して製造・販売し、また漁業者自らが新たな商品開発を行い雇用拡大と所得向上につなげる。</p> <p>・ハダカイワシ利用研究会において、未利用魚であるセンハダカの有効活用を進める。</p> <p><漁場環境・資源管理の取組み></p> <p>① プール制の推進</p> <p>・さくらえび漁出漁時に出漁対策委員会を開き、出漁の可否、出漁隻数、目標水揚げ量、漁場を協議し、資源管理を行い資源量の回復を目指す。</p> <p>・両地区のしらす漁業についても水揚げ状況と市場価格に応じて、プール制を導入する検討を行なう。</p> <p>② 適正な漁獲量の把握</p> <p>・漁場調査等を実施するなどし、適正な漁獲量、漁獲可能な資源量を把握することができるように、有識者や研究者等と連携を図れる体制づくりを検討する。</p> <p>③ さくらえびの産卵調査</p> <p>・近年のさくらえびの主漁場、生息場所の変化に伴い、さくらえびの産卵調査</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>場所の見直しや調査回数、調査範囲等を県桜えび漁業組合と水産技術研究所が連携し検討し、漁期外（7月～11月）における桜えびの産卵調査に取り組み、漁期での漁場を選定し資源保護を行う。</p> <p>④ 定置網漁業における資源管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁業の安定的操業を図るため、定置網においてクロマグロの入網が見られた際、混獲を回避するための取組を行う。 <p><機能再編の取組み></p> <p>① 供給体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらえび2そう船曳網漁業において、各市場の市況情報などを両漁協で共有し、「出漁対策委員」が指揮を執り、より単価が高い港への水揚げが可能な体制の確立を目指し、さくらえびの価格の向上、安定化を図る。また、両漁協での自営施設利用分については、安価の市場より仕入れることのできる体制づくりを検討し、消費者へ安定した価格で供給できるよう進める。 <p>② 漁港の共同利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらえび2そう船曳網漁業は漁期により漁場が変化するため、各漁期間中において漁場に近い方の港に船を係留し使用燃料削減できるような環境整備及び、漁業に必要な氷、燃油はどちらの港でも供給できるような体制の構築に向けた取組を行う。 <p>③ 防災・減災力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・由比地区では静岡市の「由比地区特定漁港漁場整備事業」に基づき漁港整備を図り、大井川地区では焼津市の「大井川港内津波対策施設整備事業（案）」に基づき津波対策を行っていく。 <p><地域活性化の取組み></p> <p>① イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・由比港漁協での「由比桜えびまつり（毎年5月3日）」、「由比港浜の市（年3回）」と大井川港漁協での「大井川港朝市（毎年4月29日）」、「商工会祭り（毎年11月3日）」等で両漁協の新開発商品（桜えびの沖漬け・漁師魂等）の販売を行い、お互いに連携してPR、運営のノウハウの共有をし、更なるイベントの活性化、特産物の利用普及を図る。 <p>② 漁業体験教室・料理教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両地区において一般、小学生等を対象とした漁業体験教室や料理教室の参加人数を増加させる為、観光業・情報産業と連携を図る体制づくりを行う。 <p><中核的担い手の育成に関する取組></p> <p>① 漁業収入向上</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・浜の担い手漁船リース緊急事業の活用により、意欲ある中核的漁業者を核とした漁村の維持・発展を目指し、地域漁業の強化につなげる。 <p>② 省力化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業の活用やセーフティーネット構築事業の全船加入を推進することで、生産性向上、漁業コストの削減および漁業収入の安定化を図り、中核的担い手や若手漁業者の確保・育成を目指す。
活用する支援措置等	[1] 漁業経営セーフティーネット構築事業、[2] 浜の活力再生交付金（水産業強化支援事業）、[3]水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業、[4] 競争力強化型機器等導入緊急対策事業、[5] 資源管理体制高度化推進事業、[6] 漁業収入安定対策事業、[7]定置網の安定的な操業に必要なクロマグロの混獲回避活動支援

4年目（平成32年度）

取組内容	<p><販売・流通力強化の取組み></p> <p>① 直販・食堂・加工場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品であるさくらえびの需要拡大と消費拡大を目指すため由比港漁協では現行施設を整備するため関係機関と実施設計の作成に着手し、大井川港漁協では引き続き食堂施設を運用していく。 ・食堂施設建設に伴い、各市場で水揚げされた水産物を直接仕入れすることで、買い支えによる魚価の安定と、消費者には安価な水産物の提供を可能にするため、買受人組合と両漁協で買参権を所得するための協議を行っていく。 <p>② 知名度・認知度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・由比港漁協においては、県内の近隣地区で開催されるイベントに年3回程度の参加、および県外で開催されるイベントに年2回程度の参加を目指す。 ・大井川港漁協においては、中京・関西圏で開催される展示会などのイベントへ年1回程度の参加を目指す。 ・由比港漁協ではふるさと納税を継続して活用し、年1回の商品の見直しを静岡市と連携して行い、魅力ある商品を提供することで認知度の向上と消費拡大を目指す。また大井川港漁協では現状は商品の提供を行っていないため、焼津市と連携しふるさと納税商品を提供できる体制づくりを検討する。 <p>③ 未利用・低利用資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品であるさくらえびを使った商品「桜えびの沖漬け」のほか、低利用・未利用魚を使った商品「漁師魂（りょうしだま）」を継続して製造・販売し、また漁業者自らが新たな商品開発を行い雇用拡大と所得向上につなげる。 ・ハダカイワシ利用研究会において、未利用魚であるセンハダカの有効活用を進める。 <p><漁場環境・資源管理の取組み></p>
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>① プール制の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さくらえび漁出漁時に出漁対策委員会を開き、出漁の可否、出漁隻数、目標水揚量、漁場を協議し、資源管理を行い資源量の回復を目指す。 ・ 両地区のしらす漁業についても水揚状況と市場価格に応じて、プール制を導入する検討を行なう。 <p>② 適正な漁獲量の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁場調査等を実施するなどし、適正な漁獲量、漁獲可能な資源量を把握することができるように、有識者や研究者等と連携を図れる体制づくりを検討する。 <p>③ さくらえびの産卵調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近年のさくらえびの主漁場、生息場所の変化に伴い、さくらえびの産卵調査場所の見直しや調査回数、調査範囲等を県桜えび漁業組合と水産技術研究所が連携し検討し、漁期外（7月～11月）におけるさくらえびの産卵調査に取り組み、漁期での漁場を選定し資源保護を行う。 <p>④ 定置網漁業における資源管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定置網漁業の安定的操業を図るため、定置網においてクロマグロの入網が見られた際、混獲を回避するための取組を行う。 <p><機能再編の取組み></p> <p>① 供給体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さくらえび2そう船曳網漁業において、各市場の市況情報などを両漁協で共有し、「出漁対策委員」が指揮を執り、より単価が高い港への水揚が可能な体制の確立を目指し、さくらえびの価格の向上、安定化を図る。また、両漁協での自営施設利用分については、安価の市場より仕入れることのできる体制づくりを検討し、消費者へ安定した価格で供給できるよう進める。 <p>② 漁港の共同利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さくらえび2そう船曳網漁業において漁期により漁場が変化するため、各漁期中において漁場に近い方の港に船を係留し使用燃料削減できるような環境整備及び、漁業に必要な氷、燃油はどちらの港でも供給できるような体制の構築に向けた取組を行う。 <p>③ 防災・減災力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 由比地区では静岡市の「由比地区特定漁港漁場整備事業」に基づき漁港整備を図り、大井川地区では焼津市の「大井川港内津波対策施設整備事業（案）」に基づき津波対策を進めていく。 <p><地域活性化の取組み></p> <p>① イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 由比港漁協での「由比桜えびまつり（毎年5月3日）」、「由比港浜の市（年3
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>回)」と大井川港漁協の「大井川港朝市（毎年4月29日）」、「商工会祭り（毎年11月3日）」等で両漁協の新開発商品（桜えびの沖漬け・漁師魂等）の販売を行い、お互いに連携してPR、運営のノウハウの共有をし、更なるイベントの活性化、特産物の利用普及を図る。</p> <p>② 漁業体験教室・料理教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両地区において一般、小学生等を対象とした漁業体験教室や料理教室の参加人数を増加させる為、観光業・情報産業と連携を図る体制づくりを行う。 <p><中核的担い手の育成に関する取組></p> <p>① 漁業収入向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜の担い手漁船リース緊急事業の活用により、意欲ある中核的漁業者を核とした漁村の維持・発展を目指し、地域漁業の強化につなげる。 <p>② 省力化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業の活用やセーフティーネット構築事業の全船加入を推進することで、生産性向上、漁業コストの削減および漁業収入の安定化を図り、中核的担い手や若手漁業者の確保・育成を目指す。
活用する支援措置等	<p>[1] 漁業経営セーフティーネット構築事業、[2] 浜の活力再生交付金（水産業強化支援事業）、[3]水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業、[4] 競争力強化型機器等導入緊急対策事業、[5] 資源管理体制高度化推進事業、[6] 漁業収入安定対策事業、[7]定置網の安定的な操業に必要なクロマグロの混獲回避活動支援</p>

5年目（平成33年度）

取組内容	<p><販売・流通力強化の取組み></p> <p>① 直販・食堂・加工場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品である桜えびの需要拡大と消費拡大を目指すため由比港漁協では現行施設を整備するため関係機関と実施設計を作成し、大井川港漁協では引き続き食堂施設を運用していく。 ・買受人組合と両漁協で買参権を取得し、各市場で水揚げされた水産物を直接仕入れることにより魚価の安定を図るとともに、消費者への安価な水産物の提供を可能にする。 <p>② 知名度・認知度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・由比港漁協においては、県内の近隣地区で開催されるイベントに年3回程度の参加、および県外で開催されるイベントに年2回程度の参加を目指す。 ・大井川港漁協においては、中京・関西圏で開催される展示会などのイベントへ年1回程度の参加を目指す。 ・由比港漁協ではふるさと納税を継続して活用し、年1回の商品の見直しを静岡市と連携して行い、魅力ある商品を提供することで認知度の向上と消費拡大
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>を目指す。また大井川港漁協では、焼津市と連携しふるさと納税商品の提供を行うことで販路拡大を目指す。</p> <p>③ 未利用・低利用資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品であるさくらえびを使った商品「桜えびの沖漬け」のほか、低利用・未利用魚を使った商品「漁師魂（りょうしだま）」を継続して製造・販売し、また漁業者自らが新たな商品開発を行い雇用拡大と所得向上につなげる。 ・未利用魚であるセンハダカの有効活用を進める。 <p><漁場環境・資源管理の取組み></p> <p>① プール制の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらえび漁出漁時に出漁対策委員会を開催し、出漁の可否、出漁隻数、目標水揚量、漁場を協議し、資源管理を行い資源量の回復を目指す。 ・両地区のしらす漁業についても水揚状況と市場価格に応じて、プール制の導入を目指す。 <p>② 適正な漁獲量の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁場調査等を実施するなどし、適正な漁獲量、漁獲可能な資源量を把握することができるように、有識者や研究者等と連携を図れる体制を構築する。 <p>③ さくらえびの産卵調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年のさくらえびの主漁場、生息場所の変化に伴い、さくらえびの産卵調査場所を見直しや調査回数、調査範囲等を県桜えび漁業組合と水産技術研究所が連携し検討し、漁期外（7月～11月）におけるさくらえびの産卵調査に取り組み、漁期での漁場を選定し資源保護を行う。 <p>④ 定置網漁業における資源管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁業の安定的操業を図るため、定置網においてクロマグロの入網が見られた際、混獲を回避するための取組を行う。 <p><機能再編の取組み></p> <p>① 供給体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらえび2そう船曳網漁業において、各市場の市況情報などを両漁協で共有し、「出漁対策委員」が指揮を執り、より単価が高い港への水揚が可能な体制の確立を目指し、さくらえびの価格の統一化、安定化を図る。また、両漁協での自営施設利用分については、安価の市場より仕入れることのできる体制づくりを構築し、安定した価格で消費者に供給する。 <p>② 漁港の共同利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくらえび2そう船曳網漁業は漁期により漁場が変化するため、各漁期中において漁場に近い方の港に船を係留し使用燃料削減できるような環境整備及び、漁業に必要な氷、燃油はどちらの港でも供給できるような体制を構築する。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>③ 防災・減災力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・由比地区では静岡市の「由比地区特定漁港漁場整備事業」に基づき漁港整備を図り、大井川地区では焼津市の「大井川港内津波対策施設整備事業（案）」に基づき津波対策を進めていく。 <p><地域活性化の取組み></p> <p>① イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・由比港漁協での「由比桜えびまつり（毎年5月3日）」、「由比港浜の市（年3回）」と大井川港漁協での「大井川港朝市（毎年4月29日）」、「商工会祭り（毎年11月3日）」等で両漁協の新開発商品（桜えびの沖漬け・漁師魂等）の販売を行いお互いに連携してPR、運営のノウハウの共有をし、更なるイベントの活性化、特産物の利用普及を図る。 <p>② 漁業体験教室・料理教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両地区において一般、小学生等を対象とした漁業体験教室や料理教室の参加人数を増加させる為、観光業・情報産業と連携を図る体制づくりを行う。 <p><中核的担い手の育成に関する取組></p> <p>① 漁業収入向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜の担い手漁船リース緊急事業の活用により、意欲ある中核的漁業者を核とした漁村の維持・発展を目指し、地域漁業の強化につなげる。 <p>② 省力化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業の活用やセーフティーネット構築事業の全船加入を推進することで、生産性向上、漁業コストの削減および漁業収入の安定化を図り、中核的担い手や若手漁業者の確保・育成を目指す。
活用する支援措置等	<p>[1] 漁業経営セーフティーネット構築事業、[2] 浜の活力再生交付金（水産業強化支援事業）、[3]水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業、[4] 競争力強化型機器等導入緊急対策事業、[5] 資源管理体制高度化推進事業、[6] 漁業収入安定対策事業、[7]定置網の安定的な操業に必要なクロマグロの混獲回避活動支援</p>

※プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄を適宜増やすこと。

※「活用する支援措置等」は、活用を予定している国（水産庁以外を含む。）、地方公共団体等の補助金・基金等を記載。ただし、本欄への記載をもって、事業の活用を確約するものではない。

(5) 関係機関との連携

<p><販売・流通力強化の取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県水産振興課、県漁連、県信漁連、静岡市、焼津市と連携し水産物販売拠点施設整備を行う。

・静岡市・焼津市と連携しふるさと納税のお礼の品として両漁協のさくらえびをはじめとする水産物を提供し、消費拡大を図る。

・静岡県水産技術研究所等と連携し未利用魚・低利用魚の魅力ある水産物の商品開発に取り組み、資源の有効活用を図る。

<漁場環境・資源保護の取組み>

・県水産局、静岡県水産技術研究所、県漁連と連携し、さくらえびの資源量の調査・漁獲可能量の把握・産卵状況の調査を強化し、資源量の増加を目指す。

<機能再編の取組み>

・県桜えび漁業組合・出漁対策委員会が中心となり市場へ水揚げする配分を決定し、より単価が高い港への水揚げに努めるほか、漁労コスト削減に向け製氷施設、給油施設等の共同利用を行っていく。

・行政と連携し、安心・安全な漁港環境づくりに努める。

<地域活性化の取組み>

・漁協、加工組合、JA、商工会、NPO 法人、行政等との連携によりイベントを開催し、地元水産物の普及を図り、地域活性化につなげていく。

(6) 他産業との連携

観光業・情報産業と連携し、各種メディアを活用して PR・情報発信し観光客を誘致することで消費拡大と地域活性化につなげる。

4 成果目標

(1) 成果目標の考え方

・水産物販売拠点を整備することでさくらえびをはじめとした地元水産物のさらなる需要拡大を図り消費拡大による漁業所得向上を目指す他、6次産業化を推進し漁業者の雇用拡大と所得向上を目指す。

・近年、さくらえびの漁獲量が減少傾向にあるため、資源管理を行うことにより資源量の回復を図り、漁獲量の増加を目指す。

・プール制を活用し、より単価が高い港への水揚げによる魚価の向上を目指す。

・小学生等の漁業体験教室の誘致や料理教室・両地区連携したイベントを開催する事で魚食普及や地域活性化を目指す。

・漁業者の減少と高齢化が進む中で世代交代を円滑に進めるため、意欲ある若手漁業者の確保と育成を目指し、新規就業者の確保を目標とする。

(2) 成果目標

さくらえび単価の向上	基準年 平成 28 年度	2,530 円／k g (税抜)
	目標年 平成 33 年度	2,783 円／k g (税抜)
地域活性化の取組み	基準年 平成 28 年度	イベント 6 回 由比桜えびまつり、由比港浜の市 大井川港朝市、商工会祭り 等 体験教室 20 回 料理教室 11 回 食育活動 5 校
	目標年 平成 33 年度	イベント 7 回 由比桜えびまつり、由比港浜の市 大井川港朝市、商工会まつり 漁協食堂フェア 等 体験教室 25 回 料理教室 15 回 食育活動 8 校
中核的担い手の育成	1 年目、2 年目に中核的漁業者の選定を行い、3 年目以降新規の中核的漁業者を年間 1 名以上育成する。	

(3) 上記の算出方法及びその妥当性

<p><さくらえび単価の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・由比港漁協及び大井川港漁協において、水揚げの総量や翌日の天候を鑑み、より単価が高い港への水揚体制の確立を進めるとともに、水産物販売拠点施設の整備やさくらえびの知名度・認知度の向上を図ることにより、価格の安定化のほか、さらなる需要と消費の拡大につなげる。これらの取組みにより、基準年度（平成 28 年度）に対し、さくらえびの単価を 10% 向上させる。 <p><地域活性化の取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協が連携した形でのイベントを新たに実施し、さくらえびをはじめとする地元水産物の普及につなげ、観光業、情報産業と連携し、小学生等の漁業体験教室や料理教室の誘致を行い来客数を増やすことで地域活性化につなげる。 <p><中核的担い手の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業、競争力強化型機器等導入緊急対策事業を活用し、中核的漁業者の育成や若年漁業者、新規就業者の確保を行う。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生広域プランとの関係性
漁業経営セーフティ ーネット構築事業	燃油高騰による漁業経費の増加に備えることで、漁業経営の安定化を図る。
水産業強化支援事業	6次産業化の推進、漁業者の雇用拡大による所得向上に向け、直販施設・飲食店舗・加工場の新規開設・整備。 災害時漁業を継続して行うための老朽化した給油施設の整備や定期的な船底清掃等による使用燃料削減のための上架施設整備。
未定	資源量や適正漁獲量を探り、資源管理に役立てる中長期的な研究活動費。
水産業競争力強化漁 船導入緊急支援事業	中核的漁業者の育成と若年漁業者、新規就業者の確保及び競争力の強化。
競争力強化型機器等 導入緊急対策事業	生産性の向上、省力、省コスト化に資する漁業用機器等の導入。
資源管理体制高度化 推進事業	資源管理型漁業の推進。
漁業収入安定対策事 業	中核的漁業者、若年漁業者の確保と漁獲金額減少時の損失補填対策。
広域浜プラン緊急対 策事業(クロマグロの 混獲回避活動支援)	定置網漁業の安定的操業を図るため、定置網におけるクロマグロの入網が確認された際、混獲を回避するための取組を行う。

※関連事業には、活用を予定している国（水産庁以外を含む）、地方公共団体等の補助金・基金等を記載。ただし、本欄への記載をもって、事業の活用を確約するものではない。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生広域プランとの関係性」のみ記載する。